

詳 報 第3回建設

ランナーフォーラム

①

公共事業を中心に建設投資が減少する厳しい経営環境の中で新事業や技術開発に取り組む建設会社と、その支援者による「第3回建設トップランナーフォーラム」が、7月24日～25日の2日間、港区芝の建築会館で開かれた。全国から2日間で延べ約600人が参加、40社が事例を発表した。各社の取り組みを紹介する。取材はフォーラムを後援した「地方建設記者の会」(建通新聞社など18社が参加)が当たった。きょうから12回にわたって連載する。掲載は毎週水曜日と金曜日。

●全体フォーラム事例発表I

初日に開かれた全体フォーラムでは、高齢者介護や農業、環境ビジネスなど幅広い分野の事業を7社が発表した。各社の取り組みは、それぞれの地域で欠くことのできない事業に発展していく可能性を秘めていた。

■全スタッフを理解 「脱公共工事」をスローガンに介護事業を立ち上げ、第一建設(宮崎市)は、2003年6月に12人のスタッフで「デイサービスセンター」はまゆうを開設した。半年間は利用者が集まらな

かったが、8カ月後、経営が軌道に乗りだした。その理由について橋邊正之社長は「利用者のニーズにマッチした営業スタイルが収益向上につながることを全スタッフが理解した」と説明する。

07年10月には、利用者から要望が高かった宿泊施設を隣接地に建設。「有料老人ホームはまゆう」として、青森ヒバの枕をつくるアイデアが生まれた。1988年に健康安眠枕

「ひば眠」を開発した際にヒバ開発を設立。97年には青森県初の化粧品工場の建設を具体化し、シャンプーや台所洗剤、化粧品などを開発してきた。

大見義紀社長は、社員一丸となった目標達成や、よりお客に喜ばれる商品開発、医薬部外品の許可取得などを今後の方針に挙げた。

■連携により事業推進 地元生産農家などの連携による、地域資源を活用した商品開発事業として奥田建設(仙台市)は、ワサビ栽培事業に乗り出した。



「デイサービスセンターはまゆう」での七夕行事(第一建設)

この連携の重要性を強調した。

■時代のニーズを判断 日本建設技術(佐賀県唐津市)は、ガラス廃材を、多孔質の新素材「ミラクルソル」として再資源化し、環境緑化の保水材や、水産養殖のろ過材など、さまざまな分野での活用を具体化してきた。

1997年に緑化工法から実証実験を開始。現在までに環境緑化工法・環境土木工法・水環境工法として18の工法を提案している。原裕社長は「長期的な視点で、これからの時代に本

地域に不可欠な事業へ

域活性化、建設業における余剰労働力の解消を目指す。2005年に事業着手。ことし7月現在で、約1畝に4万4000株を育成し、新事業における異業種

日本には建設業が必要です